

【第1回中野区消防団運営委員会】

『議事録』

令和6年1月24日 開催

【第1回中野区消防団運営委員会】

『議事録』

日時：令和6年1月24日（水） 午後1時28分から2時51分まで

1. 開 会

○福嶋防災担当課長 本日は、お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。

本日、事務局を務めます中野区防災危機管理課防災担当課長の福嶋と申します。

定足数に達しておりますので、ただいまから中野消防団運営委員会第1回を開会いたします。なお、中野区消防団運営委員会傍聴規程に基づき、傍聴希望者がいる場合はこれを許可します。本日、傍聴者はいらっしゃいません。

また、本委員会の議事録につきましては、委員の皆様にご確認の上、中野区ホームページにて公開いたしますのでご了承願います。

それでは、お手元の資料の確認をさせていただきます。初めに、中野区消防団運営委員会（第1回）次第、これはA4の1枚でございます。

続きまして、中野区消防団運営委員会委員名簿。

続きまして、資料1前回の答申概要の報告、こちらはA3の資料が2枚となっております。

続きまして、資料2、今回の諮問に対する検討事項について。これはA3が1枚です。

続きまして、資料3、消防団員に対するアンケート、これはA4が4枚。最初の3枚が両面刷りとなっております。

最後に資料4、委員会日程、これがA4の1枚となっております。

乱丁落丁等がございましたらお知らせください。よろしいでしょうか。

それでは、進行を委員長であります、酒井委員長にお願いいたします。

○酒井委員長 皆さん、こんにちは。久しぶりの消防団の委員会、よろしくお願います。

初めに前回の開催以降、新たに委員を委嘱させていただいた方が6名いらっしゃるということで、またそのほかの議員につきましても、昨年5月31日までの任期をさせていただいておりました6名の方につきましては、改めて委嘱をさせていただいておりますので、人数も多数でございますので、委嘱状は机上にご用意させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず、新たに議員になられた方をご紹介します。

令和5年4月1日付けで委員になれました日高泰夫委員です。

○日高委員 よろしく申し上げます。

○酒井委員長 令和5年6月1日付で委員になれました山内あきひろ委員です。

○山内委員 よろしく申し上げます。

○酒井委員長 小林ぜんいち委員です。

○小林委員 よろしくお願いたします。

○酒井委員長 黒沢ゆか委員です。

○黒澤委員 よろしくお願いたします。

○酒井委員長 吉田康一郎委員です。

○吉田委員 よろしくお願いたします。

○酒井委員長 石坂わたる委員です。

○石坂委員 よろしく申し上げます。

○酒井委員長 ありがとうございます。委嘱状の配布もちまして委嘱とさせていただきます。

それでは、議事に入らせていただきます。

次第に従いまして、議事を進行いたします。まず議題の1番でございます。前回の答申内容等の報告について、それでは、野方消防署からご説明をお願いいたします。

○重田野方消防署警防課長 野方消防署警防課長の重田と申します。よろしくお願いいたします。私から説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、お手持ちの資料1をご覧ください。前回の答申の結果となります。A3の2枚となります。こちらは、ボリュームがかなりありますので、概要の報告をまとめてさせていただきます。

まず、前回の諮問は、「大規模地震発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策はいかにあるべきか」について、令和3年10月から令和5年3月までの期間において検討を行っております。

2番目の「諮問の趣旨」につきましてはこの記載のとおりでございまして、その下の3番の(1)から(9)で、諮問に対するこの内容につきまして、検討を行いました。

資料1-3の表の真ん中の部分の列、前回の諮問の趣旨を踏まえまして、中野区消防団運営委員会の皆さんにご検討いただいた答申内容が記載されております。

これらの検討結果を東京都に報告しまして、都としての対応方針がその右側の部分に示されております。都の対応方針を確認しますと、それぞれの9つある項目について、当委員会答申内容を確認したところ、相違はなく、しっかり反映されていると考えております。

このため、前回の方針を踏まえまして、中野区の消防団としましては、これまでの取組みをより効果的に実施していきたいと考えております。

このあとの審議事項もございまして、全ての取組みを紹介はできませんが、前回以降新たに委員となられた方もいらっしゃいますので、これまでの取組みの中で一部をご紹介します。ただければと思います。

まず、(1)の「実戦的活動能力向上」につきましては、中野・野方の両消防団とともに、大規模地震発生時における消火活動を想定した訓練を実施しております。

この資料1の2枚目の(9)に「新たな資器材及び軽量化など負担軽減」という項目の中の4番目に、区内を流れる神田川、妙正寺川の自然水利を活用するための資器材として、「フローティングストレーナー」という資器材が配置されております。

これは水深が浅いところでも水を吸うことができる資器材ですが、これを活用しまして、震災時の大規模地震発生時の訓練を、この中で実際に実施しております。

続いて、(3)の「訓練環境の充実」の部分につきましては、中野消防団としましては、昨年、渋谷消防団と連携して、渋谷区にある消防学校の訓練施設で、実戦的な放水訓練を行っております。

また、野方消防団においても、引き続き水再生センターをお借りして訓練をしていただき、来月、2月、中野消防団が実施した消防学校の訓練施設で、放水を含めた総合訓練を実施するという予定であります。こうした訓練環境をうまく使って、訓練を実施しているというところでございます。

次、2枚目に飛びまして、(6)「若い世代の団員確保」というところの取組みにつきましては、右側の「1 ホームページ、SNSを活用した情報発信」というところで、現在、野方消防団においては、副団長を委員長として、ホームページ・SNS、情報伝達、デジタル教育を3つの分科会に分けて、デジタル広報委員会を立ち上げております。

昨年12月20日には、団員たちで作成した野方消防団の独自のホームページの運用が開始されております。

これまで消防署の中の分団の紹介ページは、1ページ程度だったのですが、各分団員が顔写真入りで紹介される等情報量は大幅にアップしております。

入団希望者が申し込みしやすいように、申請ホームボタンを新設するなど、今後のアクセス数の増加にも期待しているところでございます。

参考まで、現在のところ約1か月間で約1000件程度のアクセスとなっておりますので、委員の皆様にもクリックいただくと、モチベーション向上につながるのではないかと考えておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

続きまして、(7)「募集広報の充実・強化」のところにつきましては、記載のとおり、中野消防団において、入団促進委員会を開催しまして、事業所などへの働きかけを継続的に実施しております。

こうして中野・野方両消防団ともに、それぞれの項目について取り組んでおりますので、今回の対応方針を踏まえまして、それぞれの地域の特性を踏まえて各課題に取り組んでまいりたいと考えております。

簡単でございますが、資料1に関する説明は以上となります。

○酒井委員長 ありがとうございます。

ただいまの説明に対してご意見等がありましたら、挙手の上ご発言をお願いします。

山内委員。

○山内委員 先ほど2枚目(6)「若い世代の団員確保」というところで、例えば、先日、ちょっと関係はないんですが、「中野区検定」というものを受けたんですが、そのときには非常に申し込みしやすいように、QRとかいったものを利活用していましたが、QRを利用して若い世代が取り入れるといったようなことは、今のところ考えがあるでしょうか。

○重田野方消防署警防課長 まだ、そこまでは、今後も委員会を定期的にかきますので、今いただいたようなアイデアも、これからも出てくると思います。現在のところは、ホームページ上にはまだそこまで追いついていない状況です。

○山内委員 あと、例えば、中野区内にある、コンビニエンスストア、企業さん、スーパーなどには、街の掲示板みたいな形であるところもごさいます。そういったところへの掲示物といった、いわゆる企業連携といったことは、今のところ予定はごさいますか。

○重田野方消防署警防課長 消防署では、秋と春の火災予防運動がありまして、火災予防対策と併せて、団員の募集も行っております。

また、提示する場所といったものは、これからいろんなアイデアをいただいて、より効果が上がるように今後検討していけると思っています。

○山内委員 分かりました。ありがとうございます。

○酒井委員長 そのほか、質問はありますでしょうか。

石坂委員、お願いします。

○石坂委員 「若い世代の団員確保」というところで、先日、中野消防団の始式において、団員の方で平均年齢を下げるような、女性の方の団員が入られたなという印象を受けたんですが、女性の団員方からお話を聞いている中では、どうしても男性が中心なのはしょうがないけれども、とはいえ、女性の団員はどうしても裏方がメインになってしまうことになるということでした。

「女性が活躍していますよ」とかいう形にはならないのでしょうか。

○重田野方消防署警防課長 今、実態を見ますと、女性の団員の活躍の場というのが、応急救護の訓練をしているんですが、防災訓練でのいろんな広報・PRというのが、中心になっています。

ただ、東京都全体としては、女性の団員でチームを組む操法大会が行われたりですとか、いろんな女性の活躍の場が広がってきているところがありますので、今後そういったところも、それぞれ分団だとかの女性の能力といったものを、今後、活躍の場が広がるような仕組みにしていければと思っております。

○酒井委員長 この前、中野消防団の始式で、新入団員が12人中で7人は女性だったですよ。

○重田野方消防署警防課長 元気な女性がたくさんいらっしゃるので、

○酒井委員長 非常に今までと印象が変わったような感じだったので、これは入ってきた人たちが継続できるような形で、何か考えたほうがいいのではないかと私も思います。

ほかによろしいですか。吉田委員。

○吉田委員 私も若い世代の団員だけでなく、SNSを活用してというのは、これからということですかね。

スマホでツイッターとか、Xを見たら、中野消防団のアカウントがなかったです。

例えば、能登の震災において、自衛隊さんや警察さんが活動されていて、「今リュックサックを背負って、山を登って、食料を運んでいます」とかいうツイートが、すごく共感を呼んで、国民の理解とか感謝とか支持というのが、「いいね」が広がっている様子もよく分かります。

消防団さんの場合、例えば、始式みたいなところの恰好のいい姿を広く見せて、憧れとか尊敬の気持ちを持ってもらえるようになるんじゃないかと思います。

○重田野方消防署警防課長 ありがとうございます。

ホームページがようやくでき上がりました。SNSをアップできるといった団員さんの技術とかいったところも、一緒に教育というか、そういうところも含めて、野方消防団のデジタル広報委員会ではそういった意見も出ていましたので、今後そういうところにも踏み込んで、アピールすることも必要だと考えております。

いろんなデジタル技術の中には、それが苦手な団員さんもいらっしゃいますので、底上げと、それからそういった積極的に活用できるという取組みは考えているところで、そういった形で消防団の紹介ができればというところもありますので、今後取り組んでいきたいと思います。

○酒井委員長 そのほかにございますか。小林委員。

○小林委員 諮問が大規模地震ということで、「発生時における特別区消防団の消火活動能力を向上させる方策」ということに対して、その諮問の答申が出たということですが、今回の元日の能登半島における地震というのは、この令和3年から5年までの間というのは、大きな熊本地震はその直前にありましたが、余り身近に感じられなかったようなこともありました。今、日々の報道を見ていると、もう少し答申内容の方が変わってくるのかなというイメージを持ちました。

これはもう、諮問に対して答申が出ていて、東京都の対応まで決まっているものなので、これについてということよりも、今後のことについてですが、現実的に今直面している大規模地震、震災を、より消防団の皆さんに目の当たりにしていただくというか、

活用していただくというか、現地に行ってということはなかなか生業を持ってらっしゃる方もいらっしゃるでしょうから、難しいことだと思うんですが、

今後、交流だとかというような部分とか、それから実際現地で何が起こって、何が課題で、何がクリアされているのかということの臨場感を、きちんと次の段階のところにを入れていくことが大事、なのではないのかなと思います。

そういったことについての、次のステージはまだできていないのかもしれないんですが、その辺というのはどういうふう考えていくのか、次のステージの話といったことを入れたらどうかという提案に対して、どういうふうに今後考えていかれるでしょうか。

○重田野方消防署警防課長 令和3年10月からの諮問内容は、これである程度答申が出ているんですが、内容を見ますと、首都圏の直下型地震を想定した答申内容になっておりますが、今回の能登で発生した地震の被害の状況や、どういう活動をしたのかというのは、今後明らかになってくると思います。

その内容をどういった形で団員の方に伝えるのかというのは、今後の検討になりますが、今回の対応方針を見ますと、おっしゃった内容を踏まえた取組みができるのではないかなと考えております。

今日の能登半島の地震の情報が続々と来ていますので、恐らく東京都としても、23区の消防団に対していろいろな情報提供がある可能性もありますので、そういった情報も注視しながら、中野区で発生し得る想定が出ておりますので、引き続きその部分をよりリアルにできるよう取り組んでいきたいと思っております。

これが出たあとに発生した地震でしたので、今後何か動きがあるということは想定させていただきますと思います。

○小林委員 その上でもう1点。今おっしゃられたように、今回は、特別区消防団ということで、熊本とも、中越とも、東日本とも、また能登半島の地震とも、東京都内で起こった場合は、例えば中野で起こった場合は、想定が全く変わってくると思います。

先ほど新入団員の話もありましたが、第4分団の中で女性の方で入団された理由を聞いたら、中越地震で震災に遭ったとのことで、お友達も何人か亡くなられたという方がいらっしゃいました。

そういう現実的な体験をされている方々とのお話というのも、特別区でありながらも、貴重な方々との交流もできる場が、地域の中にあるので、そういったところを活用していくということも大事なのかなと感じましたので、この思いだけお伝えして、そういったことも今後の中に活用していただければいいと思います。

その方はお父さんが消防団だったということで、自分も消防団にということで、まだ20代後半ぐらいの方でしたが、そういうふうにおっしゃっていて、あと、職場でもいろんな地域貢献とか地元貢献とかも含めて、やっていきたいということで、お話をされていたので、ぜひそういうことも展開できるんじゃないかなと感じました。

ですので、答申の先に、中野区として、そういう資源もあるので、ぜひ上手に活用していただけたらいいなと思います。要望です。

○酒井委員長 ありがとうございます。

では、ひやま委員。

○ひやま委員 消防団の能力向上のところで、僕自身は、訓練というところが非常に大事だと思っています。その中で、操法大会が特に消防団にとっては、一番の実践の場というか、そういう機会だと思っています。

もちろん、操法大会についてはいろいろ議論があることも、当然承知しておりますが、僕自身は操法大会に向けての訓練の中で、先輩方からもさまざまなことを学びましたので、これは非常によい機会だと僕は思っています。

その上で、この訓練環境の充実というところで、僕もずっと切実に希望しているんですが、例えば、操法訓練をやるときに、各分団によってかなり訓練する環境にかなり差があると思っています。

例えば、ホースを投げても余裕ホースを取れないところとかもあるんですよ。要するに、ぶっつけ本番でやるところとかも実際あります。うちも事実上、そういうふうな感じですよ。

そうすると、例えば、1番員が新しい人で、経験のない人が、いきなりその余裕ホースをどこまでやっていいのかが分からない中で、予備の訓練もありますが、その環境を何とかしてあげたいなと思っています。

ここにも、「区と連携しながら確保する」と書いてあるんですが、具体的に今どういう議論になっているのかというと、その辺の今のこの環境の差についてどのように認識されているのかなと聞きたいです。

○重田野方消防署警防課長 今手元には各分団の詳しいところまでは知りませんが、訓練場所が各分団でかなり差があることは確かに認識しております。

ここにはそういったものをお示しするものがないので、このあとの議題で、団員のモチベーションを含めて、アンケートをいただくんですが、その中で、現在の実態について、その本音をアンケートで取っていかうと思っています。

そこには、今言った操法訓練の部分を入れておりますので、この質問の仕方を少し、具体的な質問に変えることで、実態を把握して、それを次の委員会のごときにご検討いただくことはできるかと今思いました。

○ひやま委員 そこはぜひお願いしたいと思っています。

「あそこはいいな」という場所があっても、ポンプを実際に運んで行くのは、距離が遠かったりすると大変なんですよ。

そうすると、ポンプとその場所というのは、基本は一体ですから、例えば、「いいな」と思うところに、ポンプを収納する倉庫とかいうものを、暫定的にでも設置していただいて、「訓練の期間だけはどうぞ置いてください。団員の皆さんは自転車などで来て、そこでやって、そこでまた仕舞って帰ってください」というふうな工夫を、ぜひお願いしたいと思います。

あと、指導員というか、各分団でやっているときに、先輩方からいろいろご指導いただいても、実際に本番になると、ルールがあって、「あ、こうだったの」というのが、これは「消防団あるある」じゃないですか。

だから、こういうところも指導員をもう少し強化していただいて、実践の訓練の段階で、きちんと正確な動きと、きちんと正確なルールを、一人一人がそれを認識してやる訓練というのは、まさにこの実戦力、能力向上に直結するものだと思いますので、そこについてはぜひ署でぜひご検討いただけないかと思うんですが、いかがですか。

○重田野方消防署警防課長 その件につきましても、このあとのアンケートの中で取ることになっています。

消防団員でも経験がある人となない人がいて、経験がある人に対しての研修を充実させて、指導体制をしっかりしようという、団員のモチベーションにかかってくる場所もあるんですが、その取組みの資料を集めるために、アンケートを取る予定です。

ですので、ここにつきましても、今のおっしゃられた部分が回答で返ってくるような内容で、まずは実際に把握するところからさせていただければと思っております。

○ひやま委員 お願いします。

○酒井委員長 では、黒沢委員。

○黒沢委員 1点だけ。「若い世代の団員確保」ということで、私もデジタル広報委員の一人ということもあるんですが、ホームページとSNSを活用した、消防団活動に興味を抱くようにということですが、ホームページにまずアクセスするキーワードとしては、恐らく「野方消防団」「東京消防庁」とかという検索ワードで、ようやく入っていけるかと思っています。

女性団員さんの話を聞くと、目的を持って入団している方が多いなと思っています。

これまでは、「地域の先輩から誘われて」とか、「知り合いだから入った」ということで、私たち60代、50代ぐらいの方が多いような気がしますが、最近入った女性と

いうのは、「3. 11」だとかを経験して、「何かできないかと思ったんです」とかいう方も多くて、救助を特化して一生懸命頑張っている方もいらっしゃるので、そういった窓口での広報活動がすごく必要なのかなと思っています。

目的に応じた広報活動という意味でも、この3番の座談会とか、興味があるジャンルに合わせたそういう小さな集会みたいなものがあったらいいのかなと思うんですが、現状、この3番についてはどういった活動があるんでしょうか。余り団員のところで座談会の話というのは余り聞かないので、お伺いしたいと思っています。

○重田野方署警防課長 野方、中野の事務局で把握しているものについて、座談会という形で何かを実施するというのは、今のところまだないのですが、そういったことも検討したいと思っています。

女性の方からもすごく前向きな言葉をいろいろいただいていますので、座談会であればやりやすいとかいうこともありますので、今後検討させていただきます。ありがとうございます。

○酒井委員長 よろしいでしょうか。

それでは、本議題はこれで終了いたします。

次に議題の2番。今回の諮問に対する検討事項について、野方消防署から説明をお願いします。

○重田野方署警防課長 それでは、次の資料2をご覧ください。今回ご審議いただく諮問となります。

諮問事項は、「変化する社会情勢に適応し、特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」というものです。

諮問期間は、令和5年8月から令和7年3月までの約1年6か月です。

諮問の趣旨につきましては、こちらの2番目に書いてあるとおりですが、要約をいたします。

震災100年の節目の年でもあり、消防団への期待が高まる中、特別区においては、今後、人口減少とともに高齢化が予測されていて、地域コミュニティの希薄化も懸念されています。このような中、変化する社会情勢に適応して、住民の負託に応え続けるための方策について検討してほしいというものになります。

課題と検討事項につきましては、大きく4つという項目がございまして、それぞれの項目について検討の方向性も合わせて示されております。

1つ目は、「消防団の活動を継続したいと思える組織するための活性化方策」についてです。

これにつきましては3つ方向性が示されており、1つ目は、消防団活動における世代の違いによるやりがい。2つ目は、資格取得講座の拡充と団員の技術や能力を活かすこと。3つ目は、地域の企業や官公庁と連携した各種講習について。

これらの取組みを実施していることで、活性化につなげられないかという検討です。

大きな項目の2つ目は、最新の機器や技術を取り入れることで、活動環境を改善させるということで、方向性が3つ示されております。1つ目は、出場命令や団員間の情報伝達方法。2つ目は、配置されているタブレットのさらなる活用について。3つ目は、より利便性が高い装備資機材。

以上の3つについて検討をいたします。

次に大きな3つ目としまして、計画的な人材育成方策についてです。こちらは4つ方向性が示されております。

1つ目は、経験が浅い団員への教育・訓練体制。2つ目は、経験豊富な団員の知識や技術を活かした訓練指導。3つ目は、操法訓練と実動訓練の実施に関すること。4つ目は、訓練の効果を確認すること。

以上4つの方向性について検討いたします。

そして4つ目の最後の項目は、消防団を地域住民に知ってもらうことについてで、こちらは2つの方向性が示されております。

1つ目は、消防団員が積極的に災害現場で活動すること。2つ目は、地域の行事における活動や児童・生徒への総合防災教育を通じて、地域からの信頼を得ること。

以上の項目について答申をまとめてまいりたいと思います。

それでは、これから検討していく上で、本日、委員の皆様にご検討いただきたいことが2つございます。

1つ目は、今後の検討の進め方で、今回の検討方法につきましては、団員のモチベーションに深く関わる部分が多くなりますので、各団員が日頃からどのように感じているかという、団員の現状をしっかりと把握した上で検討したいと考えております。

そのため、まず全団員にアンケートを取りたいと考えておりまして、そのアンケートを回収して、結果の分析を行いまして、答申の案を作成いたします。

その後、第2回の委員会において、アンケート結果の概要報告と答申案について、皆さまからのご意見をいただきます。

そして、第3回の委員会において、意見を反映させた最終の答申を決定いただくというような流れを今考えております。

まず、この進め方につきましてご意見があればお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○酒井委員長 では、今後アンケートを実施して、そこから出た回答をもとに検討していきたいということですが、今のご説明について何かご質問はございますか。

黒沢委員。

○黒沢委員 今デジタル広報委員もアンケートをやっていますが、95件の回答が来ています。

野方消防団員だと、何人ぐらい在籍しておられますか。

○重田野方署警防課長 約200名です。

○黒沢委員 その200名の分団に対して「お願いします」といっても、回答率というのは半分弱なわけですね。

その理由の一つは、費用弁償とかがないアンケートがあるからかもしれないし、データベースで今回は送っていますが、「紙でも対応できますので、相談してください」と

ということもお伝えして送っていますが、そうであっても、なかなか反応がないということがあります。

そういう既に課題に直面しつつある中で、このアンケートの進め方について、何か回答率を上げるために考えられておりますでしょうか。

○重田野方署警防課長 アンケートの実施方法は、具体的には、パソコンとかスマートフォンでの端末から、手軽に利用できるオンラインでと考えております。

それを使ってもらう予定でいるんですが、今のお話のように、苦手な方もいらっしゃるのでは、そこに関しては、個別に紙ベースを使わなければいけなかついておられますので、各消防署で分団の会議がございますので、分団長を通じてそこでお願いすることを想定しております。

それでもなかなか難しい部分もあるかもしれませんので、このあと説明する予定ではあつたんですが、回答期間を少し多めに取つて、回答がまだの方に関しましては、個別にお声がけさせていただくことにしたいと思つております。

そうすると、アンケートの回答の仕方とかも工夫しなかつていけないので、そこは課題なのですが、今検討しているところでございます。

○黒沢委員 私たちが出したアンケートは、これよりも半分以下のものだったんですが、それでも「長い」という、「長過ぎて回答したくない」というコメントも結構ありました。

ですので、もう少し文字数を減らしていただければと思います。

○重田野方署警防課長 本音を言えるところもあるので、前向きに書いていただけるんじゃないかと、期待はしているところではございますが、

○黒沢委員 前向きな方とそうじゃない方もいらっしゃるのでは、それによつて回答率がどうしても変わつてきつてしまうという印象がありましたので、費用弁償も含めて検討いただきたいと思つております。

○重田野方署警防課長 検討させていただきます。

○酒井委員長 ほかはありますか。

山内委員。

○山内委員 先ほどの黒沢委員の質問と重複するんですが、この消防団員に対するアンケートについてです。私は消防団員ではないんですが、これを見させていただいた中で、質問内容が非常に多いなと感じました。

似たようなアンケートを中野区でもいろいろ行っているんですが、中野区のほうから、「このぐらいの設問数だったら、回答はこのぐらい来ますよ」といったようなデータ等はあると思うんですが、「アンケートでどのぐらいの設問だったらよく返ってきますか」とかいった面での連携というのはあったりしますか。

○事務局 事務局ですが、そういったご相談とかはなかったですが、今後はアンケートについて確認して、返答したいと思っております。

○山内委員 そういったところで、直接活動とは関係ないところでも、区と連携を強化して、団員を増やすだったり、団員の皆様がやりやすい環境をつくっていくというのが必要だと思いますので、中野区としても連携を強化していただければと思います。

○酒井委員長 区民意識調査とかやっていますが、半分あればすごいんですよね。

中野区は割とそういう調査は、ほかの区に比べて高いですが、でも、設問はこれより多いようには思いますが、なかなか大変ですよ。

吉田委員。

○吉田委員 こういうアンケートをしていただいて、この取りまとめ結果は、運営委員会の委員にはすぐ示されるんですか。

第2回ときには、骨子に沿った審議とか答申案の作成をしていくときには、結果を見せていただいて、それを見ながら、委員会の私どもは参加できるのか。その辺を確認したいんですが、

○重田野方署警防課長 この進め方をご了承いただければ、設問数を調整したあと、2月上旬ぐらいでは進めて、2か月ぐらいの検討期間を取りまして、まとめに入ります。

次の第2回委員会では、アンケート結果を取りまとめて、それを第2回ときに皆さんに、「こういう結果になりました。この結果だと、大体こういう答申案の骨子はこうなるんじゃないか」というのと合わせて、皆さんからご意見をいただきます。

そこである程度まとまった答申案について、第3回で最終的に決定していくということをご想定しております。

○酒井委員長 そのほか、いかがですか。

河原井委員。

○河原井委員 このアンケートに対する設問というものは、我々がよく考えるように、実質的プロと言われる方々が何を求めるかによって、設問の仕方が違うと思うし、それを、今ならむしろ、「この中にこういうものを入れてもらったほうがいい」とかという、そういう前向きな話が必要で、パーセントが云々というのは問題外だと思うんですね。

だから、この設問はいいものかということ、まず皆さんでさっと読んでみて、回答が来るとか来ないというのは、相手方だから、これはどうしようもないことなんですよ。

ただ、我々の世代はしっかり読みますから、こうやって出ていけば、順番に読んでいますが、今の若い人は、これじゃなくて、いわゆるスマホとかいろんなもので理解する人もいるでしょうし、むしろそのほうがワンプッシュで一番答えが早いかもしれませんね。

ただ、こういう字できちんと聞いていく場合は、能力の大小がありますから、これはこれとして、この設問をもっと増やしたほうがいいとか、少なくしたほうがいいとかいうものを決めて、アンケートを取るような方法がいいんじゃないかと思うんですが、いかがでしょう。

○酒井委員長 これアンケートの中身についてはどうしますか。これから進めていくんですね。

○重田野方署警防課長 アンケートの項目につきましては、今回の資料の答申の方向性のこの部分の項目が、全て含まれた内容になっておりますので、これに関する皆さんの本音を聞きたいという内容です。

ですので、減らすのであれば、これを読み込むような形で減らすという検討が必要になると考えております。

○酒井委員長 回答のパーセントとかいうのは、いろいろ調べてもらって、河原井委員が今おっしゃったとおり、我々が何を聞くかということが、確かに大事なんだと思います。

ですので、中身が想定するのがあるかもしれませんが、このアンケート自体で今何かお気づきの点があったら、ぜひ、皆さんのご意見を言っていただければと思います。

「これをぜひ聞いたほうがいいんじゃないか」とか、「この聞き方はどうなのか」ということがあるかもしれないですね。

そういう意見がもしおありでしたら、この場でお願いしますが、資料の2と対応した形でこの説明をつくられているということですね。

○重田野方署警防課長 はい、そのとおりです。

○酒井委員長 私は消防団員じゃないので、細かくは分からないんですが、先ほど出た操法訓練の環境のこととかについては、具体的にどのようなになりますか。

○重田野方署警防課長 3の人材育成方策の訓練関係のところ、アンケートに入っていて、この部分のところで、質問の仕方について、「操法大会」とかは別にして、「実動訓練」という言葉を出して、いろいろ聞いてみたいと考えております。

○酒井委員長 ひやま委員。

○ひやま委員 アンケートを見せていただいて、これで私は特に問題を感じはしないんですが、もう少し改善する余地があるとすれば、要するに、消防団の皆さんが日頃から活動している内容というのは、さっきおっしゃった操法大会の訓練とかいろいろあるわけじゃないですか。

だから、例えば、「現在の操法大会の訓練の環境とかについて関連して伺います」とかいうよりも、もう少し、自分がリアルに考えられるような設問にしてあげると、「ここをこうしてほしい」とかいうことが本音で出るような気がします。

ですから、逆に、「実動訓練」とか何とかとなってしまうと、余りリアルがないと思いますので、もう少し身近なところで、「皆さんの現在の環境についてお聞きします」という切り口のほうが、私はイメージがしやすいのではないかなという感想です。

○重田野方署警防課長 ありがとうございます。そうしましたら、その質問は追加したほうがいいでしょうか。

○ひやま委員 そこはご検討いただければ。一団員としての意見でもありますので。

○酒井委員長 河原井委員。

○河原井委員 先ほどの話に戻るかもしれませんが、各分団の練習する場所とか違いというのは、そんなに極端なんですか。

ある程度ホースを延ばせる場所が目の前にあるとかないとか。

それによって、確かにさっき黒沢委員の言っていた量の関係も防げるかもしれないし、どうなんですか。

○酒井委員長：日高委員、どうぞ。

○日高委員 消防団の訓練場所ということで、これは数十年課題になっている中野区の問題で、私が関係した団長、3代目前ぐらいから、「中野四季の森公園」を完成するとき、これは過去になってしまったんですが、「そこで操法的な大会ができるぐらいのスペースを取りましょう」という話をしたんですが、

現実的には石畳になっちゃって、中野消防団さんの区域ですが、あそこで実際に訓練をやったら、ホースは延ばせないし、水利もないということで、訓練場所としては非常に適していない。

そして、今度いちょう公園ができて、中野消防団さんはそこで合同点検できるとかいうことで、やっと地元でできるとかいう思いがあったんですが、現実的にはあそこの芝生だとかのつくりの問題で、合同点検もちょっと苦しいかなという状況です。

○野中委員 大会は何とか。中野の場合ね。

○日高委員 特に足元が悪いと、せつかく訓練やっても、そこで二次災害ということになりますので、そういったこともないような、本当だったら「四季の森」も改善してもらって、舗装を仕直ししてもらって、それで2隊ぐらいの訓練ができる。

あと、消火栓1つつくってね。そこに小さな小屋があるじゃないですか。何も使っていない。あれは、何かやったときに、あそこで見学できる場所ということで、小屋はできたと思うんですよ。

本当はそこに舞台とかをトントンとやって、あそこで大会ができるぐらいの設備をしようというみんなの思いがあったんですが、思いが伝わらなかったみたいで、それが至らなかったという経緯があります。

これはもう何十年の課題で、我々の気持ちと役所の人の気持ちと意思の疎通が取れていなかったというのか、その辺が噛み合っていなかったのかというのが繰り返されていると、私は思っております。

○野中委員 中野の5分団ですが、「四季の森」の北側の道路の歩道で、訓練はさせてもらっているんですが。あの歩道は、半分が中野で半分が野方の管内なんですよ。

だから、例えば、そこで訓練するのに許可をいただくのも、野方と中野警察署へ行ったら許可をもらわないと訓練できない。

それで、さっき聞いた日高団長がおっしゃったとおり、最初に計画があったときは、中野と野方の消防団が合同点検できるぐらいの訓練場所があったんですよ。

それが、できてみたらなくなっちゃったんですよ。

ただ、中野の場合は運よく、いちよう公園が東大付属のところにそういう場所をつくっていただいているんですが、そこには水利がないんですよ。

深井戸を掘っていただいて、それでまかなっていたんですが、大会を8個分団がやると、最近の水が足りないんですね。だから、結局水利をだいぶ遠くからホースを20本ぐらいつないで水を入れるような感じなんですね。

それと、都大会のときは、ちょうどその脇のところに倉庫があるので、そこでポンプをこの間は置かせていただいたんで、一々運ばなくてよくなったんですね。でも、終わったら全部片付けなきゃいけないし、それでも、恵まれているほうだと思うんですが。

あと、訓練場所の件で言うと、分団によっての差は相当ありますね。その訓練場所に恵まれているところは、成績がいいです。当然ながら、毎回いいところは優秀なんですね。

○吉田委員 明確だと思います。

○野中委員 吉田先生がいらっしゃる6分団のところは、まさに酷くて、中野の北口の向こう側の細い路地で、それも上りで、4mぐらいの道路幅ですね。それこそ余裕ホースも投げられないし、

吸管の延長も厳しいような場所でやられて、本当に苦労していると思います。

学校の校庭が借りられれば、まさにいいんですが、ポンプも2台ありまして、4サイクルエンジンのやつと、2サイクルエンジンがあるんですよ。2サイクルエンジンのやつは、水にちょっとオイルが混ざることがあるんですね。だから、芝生だったり、人工芝だったところに冷却水が流れるとまずいとかいろいろあるんですが、でも、できれば、学校の校庭を訓練場所に借りられるようになると、みんな喜ぶんじゃないかと思っています。

○酒井委員長 じゃ、そこは、我々も協力させていただきたいです。

○野中委員 借りているところもあるんですよ。中野でも、借りているところは、3分団とかは、桃花小学校を借りていたり、そこは芝じゃないんですが、あと8分団も、第1小学校の校庭を借りられるようにしていただいているんです。

○酒井委員長 それが一番環境的にもいいですね。

○野中委員 そうなんですよ。学校が借りられると、まさにすごくよくて、この間、始式のあとの新年会に、各分団と町会の役員さんがいらっしゃって、その町会の役員さんの家の前で訓練しているんですが、相当迷惑をかけているので、できれば、学校の校庭を使わせていただくようなことをしていただけると、団員のそれこそ、教える人もいいだろうし、

○酒井委員長 分団ごとの環境になるといろいろということですが、学校については持ち帰って、検討しますので、

○野中委員 よろしく願いいたします。

○日高委員 私は四季の森をやめちゃったのを改善してほしいと思います。

○酒井委員長 お話を受けとめました。

吉田委員。

○吉田委員 私も平成17年から、運営委員会に区議として参加させていただいていますが、いろんな分団さんの本番の大会じゃなくて、練習などに激励に行ったりしていました。

そこで痛感していますが、本当に分団ごとによって、練習場所の環境が違って、しかも同じ分団でも、時代によって環境が違うんですよ。

分団本部があるところと、適切っぽく訓練ができるところの場所が遠いと、それだけでポンプの移動とかいろんなことだけで、もう1時間以上かかってしまい、実際の訓練の時間が取れないから、実際の団員さんたちは、本当に忙しい中で、時間を取りに行っても、出し入れだけで時間を取ってしまうので、実際の訓練ができない。

非常に短くなってしまったりとか、あるいは、あるときまではここでできたけれども、その方が引っ越されて、別の方が住むようになって、「うるさい」と言われるようになって、それで訓練ができなくなって、ほかに訓練場所を探さなければならなくなったとか。

本当に分団さんによって環境がまちまちで、整っているところでは、士気もモラルも上がるんですが、自分たちは街のためにやっているのに、なんで「うるさい」とか、「水浸しにしゃがって」とか、クレームをつけられながらやらなければならないんだらうというので、非常に士気が下がったりすることもたくさんあるんですよ。

この消防団運営委員会さんは、知事から、委員長である区長に諮問する内容なので、各分団さんの状況みたいなものを、この委員会でやるのかは分からないんですが、分団ごとの、いろんな環境、分団本部がどれぐらいの広さで、その訓練場所をちゃんとあるのかどうか。それはどれぐらい離れているのか、いろんなことを見て、

野方の第何分団については、今の場所は検討課題とか、中野の何分団については課題、とかいうことがきちんと分かるようなものをつくって、せっかく、委員長は区長で、ずらっと区議が並んでいて、中野の場合は、非常に幸運なこといいなという状況にあります。

ですので、この委員会のほかに何もないのであれば、何とかこの委員会を使って、そういうものについて整理をして、それも知事に答申することじゃなくて、区の中で頑張ることだと思うんですが、委員会として区長と区議会議員に要望書を出すとか、意見をするとかするのか。あるいは、この委員会とは別にそういう場所、会議を設置するのか。

ここでガス抜きをして終わりではなくて、きちんと前向きに進めていくためには、三年、五年では解決しないと思いますが、それについて長期的に街づくりの中に取り入れて進めるんだということで、皆さんは問題意識を持っているけれども、どこに行ったらいいんだろうとあっていらっしゃると思うので、そういうことをまじめに進めていただきたいと思います。

○酒井委員長 アンケートで聞くことと、今の分団の状況などというのは、逆に、調査をこちらからするものだと思いますので、それはこの議論とは別に、ある程度資料もあると思いますが、もしあれば、次の議論のこととして出してもらっていいかと思います。

小林委員、どうぞ。

○小林委員 アンケートについてですが、次の諮問についてということに関わって、4番の、消防団を地域住民により認知してもらおう方策についてというアンケートの内容が、これで本当にいいのかなと思いました。

その理由は、地域住民に認知してもらおう。私の消防団に対するイメージなので、例えば、町会などで防災訓練を行います。区や消防署に申請して、区や消防署の方々が来ていただき、消防団の方も見えます。

そして、消防署の方々が主になって行って、ごめんなさい、言い方が悪くて申しわけですが、消防団の方々は、ただ立っているというと、本当に怒られちゃうんですが、添えているというだけになっているような気がします。

それから、日頃、町会からも消防団を複数名推薦をして、なっっていたいでいる方もいますが、地域の日頃の交流とかは全くないに等しいですね。

ごめんなさい。これは私の町会の話だけかもしれないんですが、そうすると、地域住民に消防団員を認知してもらおうというよりも、地域の人が消防団員ともっとお互いに交

流する場がないと、消防団の方が私のところに来るときは、消防団の団員募集の案内を持ってきてくれるだけという、極端なそういうイメージもあるので、もう少し日頃の交流というものがあってもいいのかなと思います。それから、もっと消防団の方が表に出るような場があってもいいのかなと思います。

町会長は操法大会を見に行きますが、町内の方々が、地域住民の方々が、消防団の練習や操法大会など含めて、見に行く機会がほとんどないに等しいですよ、操法大会も、町会の代表の方々の席というのは、町会長の席がずらっと並んでいるだけです。

なので、設問内容が余りにも消防団側になっているので、すみませんが、これを聞いても役に立たないんじゃないのかなと思いました。

この資料2の中にそういうことが書かれているので、こういう質問になるのかなと思うんですが、1番にしても、これを聞いて地域住民との間が狭まるとかいうと、それはしないと思いますし、災害現場で活動してみたいかと聞かれても、これは住民は関係ないですし、消防団の方々が前面に出るような場を見ることはないですし、ポスターを貼ったところで、回覧板を回したところで、見るけれども、右から左なので、余り意味がないんじゃないかなと思います。

そうすると、もっと現実的な接触する場、逆に言えば、地域住民からアンケートを取ったほうが、よほどいいんじゃないのかなと思うような気がします。

○酒井委員長 どうぞ。

○日高委員 それに関しまして、地域の人たちと消防団が一線を引いてしまっているという町会の人が多いような気がしますね。

町会は町会、消防団は消防団で、これは町会と関係ない。防災会があります。防災会は防災会でやっているんだから、消防団とは関係ない。消防団は何かあったときには東京都の傘下で消防署に協力して、そこでやっていくんだったら地域とは関係ない。

私が見ていて、そういう考え方の町会が非常に多い。たまたまうちの町会とか新井町は、ほとんどそういうことはありません。それはなぜかということ、何十年も消防団と地域の新年会、いろんなどころに消防団の新年会、町会の人を呼んだりとか。

軽可搬ポンプというのがありますが、我々は、軽可搬ポンプを指導するために、2隊分の人員を確保して、我々が地域の人たちに教えてあげるんだ、地域の人たちが、「お前ができるのかよ」「分かりました。やりますよ」と。パッとやって、それで教えてあげる。その積み重ねで、今の新井町が非常にいい状態になっていると、私はそれを信じています。

だから、そういうところをやってないところが、どうしても線を引いてしまう。それでも、中野区の行事と消防団の行事の両方については、消防団もかなりの負担があるんですが、お互いにその辺を頑張っ、この交流をしていくのが非常に大切だと思っています。

その中で、防災リーダーというのがあったんですが、私は、講習を受けて、防災リーダーの第1期生なんですよ。

それで、最後の日に言われたのが、「あなたたちは、消防団と違って地域に根付いてやるんですから、消防団はほかに行ってしまうのだから、あなたたちがこの街を支えるんですよ」という、中野区の説明があったんですよ。

それを聞いたとき、頭に来てたんですが、その辺はこらえましたが、その辺の区の指導も足りないのかなと私は感じました。

○酒井委員長　　今のお話も受けとめてまいります。

○日高委員　　講習に来ている人たちの思いを盛り立てるということにはいいのかもしれないですが、どっかと比べてしまうと、余りよくないのかなと思いますね。

○酒井委員長　　どうぞ。

○大野委員　　今おっしゃたように、中野の町会というのは突出していますよ。

それで、我々も考えているんですが、町会と消防団はもう少し緊密にしていかないとうまくいかないのかなというのは感じますね。

特に、消防団自体が、うちなどで言いますと、しっかりまとまっているのはいいんですが、人数が少ないんですね。

○酒井委員長 内容の審議にも入っていますが、地域住民によりそってもらうためには、まずは町会とも関係をもうちよっと深くしたらどうかというご提案だと受けとめました。まさにそこが課題であるということですね。

○大野委員 訓練しているところを町会に見てもらおう。そうすると、消防団のイメージも違うし、「じゃ、私もやってみようかな」「僕もやってみようかな」という若い人たちの声も出てくるんじゃないかと思うんですね。

○酒井委員長 そういうのを、また次回やりますかね、
どうぞ。

○小林委員 私も、区議会議員で、町会長で、防災会長で、ほとんどの消防団のさまざま催しには全て参加していて、その上で、この設問だと、消防団の方々から地域の中という、この質問の仕方だと、認知してもらうような質問になってない。

消防団がただ思うところであって、消防団だけではなくて、地域にもこういうアンケートというか、知ってもらうためのことを、きちんと重ね合わせていかないといけないということと言いたかったんです。

要は、これだけだと、消防団がただ思っているだけで終わってしまうというところが、すごく気になる設問だなと思って、そこが一番言いたかったところです。

さっきおっしゃったように、町会長をされていて、すばらしく地域もまとまっていちゃるということが、町会の中では大事な課題で、逆にいえば課題でもあると思います。

そういったことをどれだけ知ってもらうかということで、「こうしたら町会の人たちともっと理解し合える。消防団の方々もこうして知ってもらったらいい」というような、

そこの重ね合わせ、交わっているところをより大きくしていけば、地域住民の方により認知してもらえないかなと思っています。

そういった意味合いで設問をつくったほうが、認知してもらうためにいいかということで、この4番の設問がいいかどうかということも含めて、ちょっと気になっているんです。

○酒井委員長 この設問自体が認知する方策について、適切に問うているのかというところですね。

○重田野方署警防課長 団員と町会の関係だとかを聞くようなところからスタートして、実態が分かったあと、町会をどうやって流れをつくっていくかというほうにもっていくというイメージでしょうか。

○酒井委員長 たぶん、団員のアンケートだけだと、聞けないことがいっぱい入っているんだと思うんですよ。

だから、町会との関係というのは団員に聞いても分からないと思いますし、だから、この団員に聞くべきことですよ。

多分、このアンケートの意図としては、聞くことによって、団員に考えてもらう機会になるのかなということが、いくつか入っていると思ったので、意図的にはね。

でも、実際に団員に聞いて方策を考えるということを考えるんだったら、今の質問でどうかなというのが、小林委員の意見ですね。

あと、次回話すであろう中身についてのいろいろな意見が出ましたが、そこの現状を知る上では、団員だけでは分からないことがあるんじゃないのかなと、今聞いていて思いました。

例えば、町会長、この議員の皆さんも団長が2人いらっしゃいますし、詳しいですから、そこら辺のヒアリングを逆にさせていただくほうが、もっとたどり着くのが早いのかもしれません。

区議会議員の皆さんで消防団に入っていたり、出身の人はいらっしゃるわけですね。

だから、逆にいろいろ知識があるからあれですが、純粹に団員としてこれを見たときに、これでどういうアンケートになるのかなというのは、

私は団員の知識がないので、「これを聞かれてどう導くんだ」と思うのがいくつかありましたね。特に、小林委員がおっしゃった、4番の認知してもらう方策などは、

どうですか。今のうちに何か聞いていただくことがあれば、
どうぞ。

○ひやま委員　そもそも、自分たちの認知度もどれくらいなんだろうというのを、実際本人たちも分からないままなんですよ。

だから、小林委員からもあったように、認知される側にそれを問われても、なかなかお答えするのもかなり限られてしまうのかなという気がしないでもないですよ、

○河原井委員　これだけ深い議論をしたのは久しぶりですというか、余りなかったんですね。

過去からずっと私も参加させていただいて、今日はすごくよかったです。

委員になった方々も内容をよく知らなかったから、そういう初歩的な質問が出たりして、だから、委員会というのは、それだけ人数が変わって、新しい方が入ってきても、「委員会はいつもこういうもんだよ」という形でいつも流れていたから、そういう意味では、今日はいろんな話が出て、私も楽しかったですよ。(笑)

委員会ですから、皆さんを笑わすのはよくないかもしれないけれども、余り堅苦しい顔していると、みんな肩が凝ってきて、年取ると笑も欲しくなっちゃう。(笑)

町会というものについても、消防団に対してはちょっと一線を引いていた部分が、昔はありますよ。

消防団は消防団としてのステータスがあるんですよ。町会は町会で一生懸命練習したりなんかしているから、そのうちに町会も手が足りなくなるので、消防団に手を貸してもらおうよとかいう流れができてくると、うちあたりなんかは、餅つき大会でも消防署の人に来てもらって、その脇で消火器訓練するとかやって、融合させているわけですよ。

だから、氷川神社の年末年始警戒の時にでも、地域を回ってもらうとかいうふうにして、町会も有意義に消防団を使うという、言い方は悪いですが、接点を持つようなことを、こっちが発信しなければいけないのかなという気がしますよね。

皆さんが融合している部分も出てきていますが、まだ、それではないところもあるようですから、こういう意見が出たときは、これを発展させていただいて、ぜひとも町会と、町連との融合を、積極的につくっていただくといいんじゃないかと思います。

区議会議員の方々には、特に、町会は身近ですから、私も前に町会長をやっていたんで、少しずつ変わったなという気持ちはしますので、そんなような形でお願いしたいと思います。

何かまとめに入ってしまったいますが、(笑)

○酒井委員長 町会と消防団の関係は、大野委員からお話もありましたので、大野委員は、町会の副会長でいらっしゃいますので、また、その町会との話はまた別ですよ。どうぞ。

○大野委員 町会は町会なんですけど、町会イコール防災会議ではなくて、マンション独自で防災会議をしているところもあるので、もし進めていくときに、町会でない防災会議もぜひ視野に入れて、非常に融合していただけるといいかと思います。

○酒井委員長 なるほど。
どうぞ。

○重田野方署警防課長 「町会の方がどんなふうに消防団を見ているかということを知りたいなと思います。

○酒井委員長 町会連合会にご協力いただくこともできると思いますので、これは、うちのほうで、

○重田野方署警防課長 団員アンケートだけだと、ちょっと厳しいなというところから、今救いの手をいただいたと思っております。

○酒井委員長 では、とりあえずアンケートについてはいろいろな意見が出ましたので、難しいとは思いますが、何とか出せるところまで。

○重田野方消防署警防課長 そうしましたら、項目数についてと、それから先ほどいただいた意見について、大きな修正はなくてもいいかなと考えておりますので、今言った意見を含めて、これは、Google フォームで一度テストしたんですが、項目の数が増えたりとか、言い方を分かりやすくするかという修正は必要ですが、そこはこちらの担当にお任せいただいて、修正をかけさせていただければと思います。

あわせて、区のほうと連携して、町会のほうにも、そういったことが聞けないかというのをやらせていただけるような形で、進めていってよろしいでしょうか。

○酒井委員長 では、今回は入り口の話だったんですが、次はいろんなデータも出てきて、その中で具体的に諮問にどう答えるかというところの中身の議論になると思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

ということで、議題の3番、次の開催予定ということで、事務局からお願いします。

○事務局 それでは、資料4をご覧くださいと思います。

次回、第2回委員会は、令和6年4月または5月に開催し、答申案を検討させていただきたいと考えております。

なお、具体的な日時、会場につきましては、野方消防署と調整いたしまして設定して、改めてお知らせさせていただきたいと思います。

○酒井委員長 何かご質問はありますか。

よろしいですか、

それでは、詳細が決まりましたら、事務局から開催通知を後日お届けするという
でございますので、よろしくお願いします。

最後に（４）「その他」ということですが、委員の皆様から何か、この際なので、ご発
言はございますでしょうか。

吉田委員。

○吉田委員 先ほどの諮問のこととちょっとずれるかもしれませんが、皆さん、大切な
課題だとして、分団ごとの環境の差というのが、募集や士気やいろいろなことにもすこ
く影響するんだということで、共通の認識をいただきたいと思います。

それについてきちんと、検討する場所はこの委員会になるのか、別のものなのか。こ
こに出た意見として、何か取組みをしなければいけないというのは、この「その他」の
部分で、委員会の委員から、私を含めて出たということは、きちんと記録として残して
いただきたいと思います。

○酒井委員長 環境については、資料を出していただくのかな。

それについて、ここで共通認識を持つことが、一つは有効だと思います。今回、諮問
の中身に触れることだと思いますので、シェアしていただければと思います。

それをどうするかというのは、また次回ご相談できればと思います。

ほかに意見はございますか。

それでは、ご発言がなければ、これで議事を終了いたします。

5. 閉 会

○事務局 ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして中野区消防団運営委員会を閉会いたします。本日はまこ
とにありがとうございました。

（了）